

特集 令和3年度事業計画(抜粋)



「バレンタイン祭り」
第2大島恵の園

トーク

夫婦でバングラディッシュの 女性たちを支援

ミャンマーでは、国軍が国民に向け無差別に発砲し多くの死者がでています。その中にはこれからのミャンマーを背負う子供や若者もいます。理不尽であり、残虐であり、強い憤りを感じます。今、様々な団体が署名を国会議員に提出し、超党派で支援が叫ばれています。国軍に届くことを祈っています。

ミャンマーの隣に、バングラディッシュ人民共和国があります。日本の4割程度の国土に日本を超える人が暮らしています。独立までの歴史の中で民主化にたどり着きましたが、赤字国家で貧困が続き、現在はサイクロンの被害と新型コロナウイルス感染拡大の複合災害で国民は大変な状況です。そのバングラディッシュの女性たちの人権や尊厳の擁護、経済的自立、社会参加、健康問題、持続可能な学校給食などの支援活動のために「一般社団法人フェアトレード・ロシユン」という団体があります。現地での活動の他、バングラディッシュの文化の紹介や募金活動、伝統工芸ノクシカタ刺繍の普及・販売をしています。団体を運営し、中心になって活動を推進しているのは、1983年に青年海外協力隊に参加し、同国で女性の尊厳が守られていないことを目の当たりにし、女性の自立支援を始めた馬上慎司・美恵子夫妻です。お二人はバングラディッシュで、ノクシカタ刺繍の精緻さ美しさに触れ、これを販売し女性の仕事と経済的な自立につなげようと意気投合したことがきっかけで結婚され、以来40年近くにわたって、活動を継続している素敵なご夫婦です。今では、全国でノクシカタ刺繍の販売会を行い、売上額も増え、女性たちの自立につながっています。また、その活動が大学の英語の教科書に掲載され、高校で講演する機会を得る等、着実に成果を上げていますが、認知度はまだまだのようです。

私は馬上慎司さんと小学校の4年間一緒のクラスで、コロナ禍以前は毎年のようにクラス会で会っていましたが、1年の半分はバングラディッシュにいてと言っていました。今はコロナ禍でそれもかなわず、国内の活動成果を現地に届ける状態です。フェアトレード・ロシユンで検索いただき、是非ご協力をお願いします。

令和3年度 社会福祉法人武蔵野会 事業計画書(概要)

事業方針

(1) 武蔵野会の持続可能性の追求と基本方針

感染症拡大の影響が、近年の社会情勢である高齢者の増加や経済格差、孤立をさらに進め、生きにくい状態にある人が確実に増えている状況下、社会福祉法人への期待は高まっている。福祉の役割は増大するが、働く世代の減少で人材確保は一層困難になっている。10年後を見据え、武蔵野会を持続可能にする視点に新型コロナウイルスの感染防止対策とBCPが加わったが、今後も自然災害やウイルス感染は起こりうるとして中長期事業計画には必須の項目となる。防災委員会を中心に災害対策や避難訓練を継続する。

中長期の基本方針は「一定常化に徹し、地域共生社会実現のため、法人の規模拡大ではなく、法人の役割を拡大すること」を継続する。実践方法は、コロナ禍でオンライン活用は増えるが、コロナ後においても必要に応じてICT活用は継続するため、積極的に導入を検討する。責務化された地域公益事業は、法人や各施設で新しい計画を必ず実践する。法人は広域的活動、各施設は地域密着型ネットワークの核になり、地域住民や福祉団体、行政等

(建物維持と資金調達)

利用者生活に直結するのが建て替えや大規模修繕であり、中長期計画に沿って実施する。練馬福祉園建て替えは、設計会社と本部、園役職者で定期的に打合せが行われ、本設の設計が昨年度終了し、今年度は着工のための重要な年になる。補助金申請に備え行政との連携も含め着実に進める。大島恵の園移転建て替えは、本部を中心に家族会正副会長や施設長等で検討委員会を発足させ、東京都、大島町、八王子市との面談を実施したので、相談を継続しながら今年度中に移転先土地取得を終わらせ、次年度から設計に入れるようにする。福祉園建て替え、大島恵の園移転用地購入資金は、本部繰入金との合算を基本とするが不足分は助成金や融資、寄付金等を織り交ぜ準備する。今後報酬改定で増加は考えられないため、各施設は利用者増や地域ニーズにあわせた新規事業で増収を図り、法人としてはファンドレイジング等を導入し、企業の寄付金の可能性を広げるため、資金調達担当職員を配置する。

(防災計画)

災害対策は、地震や火災に加え、想定外の水害にも備えが必要である。防災委員会の活動が定着したため、法人全体の防災訓練や安否確認をさらに充実させる。遅れていた法人BCPを完成させ、各施設と連携を綿密にする。全国でも災害対策意識は高まり、東京都社会福祉協議会や経営者協議会でも強化している。防災対策を強化しながら東京都のネットワーク、日本福祉大

と連携し地域での役割を積極的に拡大する。法人、施設とも役割にSDGsへの貢献、企業CSRも視野に入れる。

法人は東京都地域公益推進協議会に所属、理事長と本部長が幹事を務める。理事長は地域福祉推進検討ワーキング委員でもあり、武蔵野会は東京の地域福祉を率先して推進する立場にある。分野横断、重層的継続的な地域福祉を実現するため本部内に「断らない相談事業所」を立ち上げ、八王子市地域福祉コーディネーター等と連携し、施設が地域福祉ケアの拠点となるよう活動する。事業所は準備が整い次第6月から開始する。

法人が持続するために利用者の暮らしの充実が必須である。練馬福祉園建て替えと、大島恵の園の島外移転は法人中長期計画の中で大きな事業である。福祉園建て替えは順調に進んでいるが、大島恵の園移転のための土地購入は年度内にめどをたてる。資金獲得のため、ファンドレイジング実施やホームページで寄付ができるようにする等、様々な対応をとる。

(人材確保と育成)

法人持続のため継続している大きな課題は人材確保である。採用担当者置きエバンジェリストの活用も定着し採用活動はこれまで以上に充実したが、学

(理事会・評議員会等)

理事、監事、評議員は6月で任期満了となる。このため法改正後軌道に乗った現体制の役員、評議員の法令に沿った重任、就任手続きを行う。昨年度、理事会や評議員会は感染症予防のため、会場とZoomによるオンラインのハイブリット式で実施しており、コロナ禍で生まれた新しい様式を今後も積極的に取り入れる。6月の定時評議員会では決算、充実度高確認を議題とする。特に決算は5年目となる会計監査人が、各拠点の課題を把握した上で改善を図ることで法人会計全般のリスク低減を進める。結果は監査報告書として監事と理事長が受け、理事会を経て評議員会に諮る。決算は事業計画の確認が必要との評議員の意見で6月と3月の2回評議員会を実施する。

理事長、本部長、執行理事の業務担当は、定常化への課題解決の対応を行い、隔月の業務執行会議で進捗を確認する。執行理事の取り組みは、理事会評議員会で定時報告をする。

会計監査人以外にも顧問税理士が各施設を訪問し施設毎の会計内容を把握し業務内容の確認とアドバイスをを行うが、コロナ禍のため、オンラインも取り入れて実施する。今年度も理事会4回、評議員会2回を実施し、昨年コロナ禍で実施できなかった運営協議会の実施も検討する。

(法人10カ年長期計画と第6期中期計画)

昨年度は、新たな第6期中期計画の

新卒確保は少子化にコロナ禍が重なり厳しい状況である。今年度は次年度採用のため、福祉従事者採用専門の求人団体と連携を強化し、福祉系大学とオンラインでの連携や一般大学の採用活動を拡大する。同時に各施設で採用活動の強化を徹底する。

施設長は、今後5年間で11人が定年になる。育成を計画的に行い、施設長人事に備え社会福祉法人の役割拡大を継続して果たせる集団力を維持向上させる。職員人材育成は、役職者を中心としたプロジェクトチームが行った研修計画や講師育成、キャリアデザインシート活用等の取り組みを継続する。支援介護の基本ブック改訂は、理念理解による基本的支援姿勢だけでなく実践に結び付けるための様々な知識、支援方法を決定する手順、チームワーク等をプロジェクトチームが現状を分析し作成する。武蔵野会が理念を行動に移すための基本的な指針となる重要なプロジェクトである。運営の核となる理念研修は、昨年度コロナ禍で始めたオンラインのダイアログ研修を継続する。様々な年代の職員と理事長、本部長が少人数で理念を語る経験を重ね、理念への意識は確実に高まっている。

(地域公益活動)

共生社会につながる地域公益活動は、巨大都市東京の複雑な福祉課題を法人職員全体で共有する研修を行い徹底する。各施設の地域公益活動は、施設長が活動の重要性を認識し職員と共有しない限り実践に結び付かない。今年度は地区会議で徹底的に話しあい、小さなことでも必ず実践に繋げる。

策定予定だったが、現在検討中の法人10カ年長期計画とリンクさせるため、策定後に新たな第6期中期計画へ移行する。10カ年計画は、今後も事業収入の増加が見込めない中、コロナ禍の税収減少、コロナ対策費のための支出増など、より厳しい状況となっている。その中で長期的な資金運用は、昨年度後半から開始した外部コンサルタントを取り入れた人事制度委員会による人材育成と連動した給与制度見直し、各施設の長期展望に沿った資金計画作成など、安定した長期資金運用計画を策定する。

人材面は、施設長の世代交代の対応のため、将来管理職を担う役職の育成を継続する。東京都福祉求人全国一有効求人倍率が高いという採用難であり、法人を維持するための新人、中途者の採用は継続した重点課題である。サービスでは、年々高まる利用者の高齢重度化、重複化対策、新たに求められるICT化の検討、制度の狭間で多様な生きにくさを抱える人々への支援等、様々な課題への対応が必要。

現在の大きな課題である大島恵の園の建て替え移転計画は、長期計画となるため、移転先選定から周到な準備と設計が必要であり、理事会で進捗を確認しながら進める。

(利用者の高齢重度化、重複化への対応)

各施設では、高齢重度化、重複化に加え、強度行動障害、発達障害、精神障害等、対応が難しい利用者支援が求められている。各施設の実践を、事例報告会や実践集等で共有するのは無論、導入を始めたケース事例検討、意思決

むさしの 武蔵野

3月11日を

忘れない

2011年3月11日、あの時私は何処で何をしていたのか。その日は、地区内の事業所で会議中だった。揺れ始めは「おつ地震だ」と思う程度だったが、強く長い揺れが続きこれは尋常ではないと感じた。揺れが収まり直ぐに事業所へ戻り利用者の帰宅準備を急ぎ、まだ交通渋滞が始まる前で利用者は全員帰宅できた。職員も早めに退勤し、私は方向が同じ職員と乗り合った車両で帰宅した。その途中、停電で真っ暗な住宅街、消えた信号機、暗闇を歩いて帰る人、その光景を見て異様な空気を感じたのを今でも鮮明に覚えている。そして翌朝、テレビに映った福島宮城、岩手の太平洋沿岸部の津波襲来の映像を見て声を上げ只々驚愕するばかりだった。

法人の被災地支援が始まったのは翌4月から。毎月20人前後の職員がマイクロバスに乗り金曜の夕方石巻市に向け出発、早朝着。支援先に向かう途中の市街地は見覚えのあるかつての姿ではなく、悲しくなる程にズタズタな酷い光景だった。あの時の衝撃は決して忘

れられない。翌年の南相馬市では原発の避難指示が解除された小高地区にある高齢者施設の片付け。施設の中にはつい先ほどまで生活していた日常の風景が残っていた。眼鏡、杖、入れ歯、全てを置いて避難した入居者の無念な思いが伝わってくるようになった。

そして11年目を迎えた今年。この時期はテレビ、ラジオ、新聞、あらゆるメディアが東日本大震災を取り上げる。特に今年は「10年の節目」という言葉をよく見聞きする。しかし地元の人たちはどうか。ある記事に「私たちにとって3月11日は忘れられない日ですが、連続した時間の中にある現在進行形の「一点です」という当事者の声があった。確かに震災に対するそれぞれの区切りや節目はあったかもしれないが、震災そのものへの思いは失った家族や町の風景を通して変わりなく続いていくのだろうか。

当事者ではない私たちにできることは、3月11日、あの起きた事、目にした光景、その時感じた思いを心に留め地元の人たちに寄りそう気持ちを忘れないで持ち続ける事だと思ふ。

九品仏生活実習所

施設長 山内ゆきみ

定支援の標準化など職員への支援力向上の取り組みを継続する。重度化については、支援技術のソフト面での対応だけでなく、ICT活用を前提とした施設内環境などハード部分の対応も必然であり、計画的な整備を実施する。地域では基幹型相談支援センター等の実践から、様々な相談を通じたこの分野への精通、地域自立支援協議会の運営や参加を通して地域の病院、専門機関、行政など関係機関との共通の目的に向け、情報を共有し協働できるように、法人内のバックアップ体制を整える。

事業計画

(1) サービスの質の向上 (信頼と安心のサービス)

- ①理念に基づいた支援体制の確立
支援介護基本ブック改訂と継続的活用、全職員のマイ支援ブック完成と書き直し。各地区の事例報告会は、感染症予防をしながら継続し、他地区も積極的に参加することで、支援や取り組み姿勢を法人内で共有する。ダイアログ研修もオンラインで実施し、理念の確認、他施設職員との意見交換の有用性を確認したので継続する。
- ②人権研修の継続
虐待防止対策継続、触法障害者等生きにくさを抱えた人への積極的関与を継続し、支援が必要な人へ地域情報の提供、共有を行い、生活や就労の支援につなげる。子どもの貧困対応、地域包括支援推進を実践する。今年度の武蔵野セミナーは、オンラインで実施する。テーマを8050問題の背景とも言われる「引きこもり」とする。

蔵野セミナーは、オンラインで実施する。テーマを8050問題の背景とも言われる「引きこもり」とする。

- ③施設運営
職員育成計画の充実を図る。
- ④サービスの標準化
各マニュアルの見直しと策定。標準化のための適切な人事配置と役割付与、職種間の連携によるサービスの質の向上。

⑤業務評価と業務改善
東京都福祉サービス第三者評価受審は施設負担を考慮し、通所施設等によつては隔年とする。受審施設は指摘事項の改善を速やかに行う。各施設の情報を共有し、支援方法や運営を常に改善していく。

- ⑥リスクマネジメント体制強化
法人委員会を中心に、システムが形骸化しないよう各施設の標準化したりスクマネージメントの取り組みを継続する。法人内の事故を教訓に、怪我、誤投薬等の防止だけではなく運営全般のリスクマネージメント体制を維持する。
*苦情解決事例集、気づきメモ等を活用し、シエル分析、虐待防止プログラム等で様々な事故の防止に繋げる。
*防災委員会による法人全体の防災訓練や安否確認が定着し今後も継続する。日本福祉大学と連携し人的、物的支援など具体的な共同連携を継続する。

- ⑦情報開示・保護、情報発信
重点項目は、コンプライアンス委員会による情報セキュリティを構築する。その他、個人情報保護規程の周知と対策実施、マイナンバーの確な対応継続。情報発信は、新人採用に対応した法人の新しいホームページの定期的更新と見直し、各施設のホームページの紙面充実と定期的更新を行う。

⑧利用者満足とQOL向上
法人全体での理念研修実施、東京都福祉サービス第三者評価の分析と改善の徹底、発達障害など支援が難しい利用者に対する共通理解と積極的な支援、強度行動障害支援の標準化。多職種連携と地域資源を利用した地域包括支援の実践、増加する医療的ケアに対応するネットワークを各地区、施設で見直し再構築する。

- ⑨利用者生活環境の整備
八王子生活実習所、大島恵の園建て替えのための、委員会による事業計画作成とそれに基づくコンサルタントによる基本設計と実施設計、施工業者入札と決定。
- ⑩地域福祉ニーズへの対応
・リアン文京、小平福祉園での地域公益的な取り組みと継続。
・八王子地区での生きにくさを抱えた方の受け入れと支援。
・各地区での地域包括ケアの実践（フードバンク、子ども食堂、地域サロン、地域の学校との連携、少年院等矯正施設の退所者他）

(2) 地域社会への貢献 (地域福祉の推進)

- ①地域プラスワン事業継続
- ②施設プラスワン活動継続
- ③福祉教育と人材育成
ボランティア育成推進、実習生受入の質と量の拡充、学校での福祉教育推進、施設職員講師による学校授業の実施と職員の講師派遣。

④新規事業の量的整備
リンクス柵田のGH、SS開始。文京区立障害児相談支援事業、世田谷区烏山地区特定相談支援事業の事業委託。

- ⑤日本福祉大学との連携強化
提携法人サミット参加、法人研修等への大学教授招聘、武蔵野会役職の提携法人訪問実施、提携法人間の防災ネットワークの具体的取り組み実施、大学院での法人理念経営の講義継続。
- ⑥HIV長期療養者の福祉施設受入れ課題研究
福祉施設として研究参加継続、全国啓発研修の講師派遣継続。
- ⑦成年後見制度（法人後見）推進
一般社団法人「みんなの力」のバックアップ（身上監護チーム参加等）の継続。

- ⑧各地区での障害者・高齢者の累犯障害者地域生活定着支援事業の実施
法人化した生きにくさを抱えたネットワークへの中心的関与、多摩地区地域支援力向上委員会運営会議への参加実施
- ⑨生活困窮者地域生活定着支援事業の実施
中間的就労の実施。各市町村のネットワークに参加。各地区の自立支援機関との連携。東京都「はたらくサポートとうきょう」での実践。

(3) 財務基盤安定化 (自立健全経営の実現)

- ①施設利用率95%以上達成。
- ②長期計画に合わせた5年10年後の法人資金計画を示し、各施設はそれに添った資金運営を行う。今後厳しくなる事業環境の中、現事業の安定運営を基本に据え、地域福祉ニーズを把握した新規事業を積極的に実施し、事業の充実に伴う増収を確保する。
- ③建て替え資金は、法人積立金、各施設の事業運営からの捻出、建設時の借入とその後の施設での返済が基本となるため、法人と施設は財務状況を把握し、資金収支コントロールを行う。

(4) 人材育成（学習と成長の組織）

- ①研修システム体系化
人事システム導入、研修委員会による横断的な法人内研修運営。

- ②人材育成方法の開発
キャリアデザインシート運用とスーパーバイズ研修導入。理念研修の強化、地区研修の実施、地区実践事例報告会継続と支援実践集作成。
- ③研修カリキュラム推進
施設長研修の定期的実施、次世代育成研修としてのダイアログ研修の継続、サポカレ継続、ラーニングシステムの開始。
- ④オンライン化
昨年度整備したオンライン研修システムのアップデート。
- ⑤人事制度再構築・法人の組織強化
①次期10カ年計画策定
・法人経営モデルの確立・医療、教育と連携した多面的な支援の実現
・人材確保計画・入所施設を中心とした採用困難施設、職種への特化した対応の継続（採用年齢幅の拡大、採用地域拡大、福祉企業への委託、連携、ホームページ活用、大学での講義拡大、担当職員の採用）
・施設整備計画の確実な実行・令和13年度までの建て替え計画の進捗確認。

- ②本部機能の強化
本部業務の見直しと今後の強化計画。
- ③人事制度の見直し
人事考課制度の見直し及び人事システムの完全導入による個人情報データ化と管理の徹底。

- ④働きやすい職場づくり
全施設でのストレスチェック実施、組織サーベイ実施。現場のメンタルヘルス研修とうつ病などへの早期対応、子育て支援制度委員会の再開、武蔵野会健康ダイヤルの継続
- ⑤職員離職率5%以下実現
理念による福祉実践を徹底し自己実現につなげる。労災事故を減らす。ハラスメントの防止と職場風土調査による管理職の意識強化。むさしの生活倶楽部利用促進、子育て支援等職員福利厚生強化。
- ⑥異動要綱、昇任基準に照らした中堅職員抜擢。資格取得促進、キャリア研修実施。

(6) 職員採用計画・人事配置計画

- ①職員採用計画
令和2年4月の緊急事態宣言以降は採用説明会、就職フェア参加をオンラインに切り替え、1名ずつもしくは少人数で対応している。オンラインでは最終学年以外の学生の参加もあり、繋がることを大事にして、4年生となった時に法人採用試験の参加を促していく。
コロナ禍で各大学への訪問は中止となっているが、大学も対面学習の再開等、状況も変わっており、新たな対応を検討していく。オンラインの長所を踏まえて、採用募集地域を拡大し、東京だけではなく全国への募集活動を検討し、更なる応募拡大に繋がるようマ

イナビ等のWeb媒体に載せる写真や原稿、時期を考え、費用対効果の高い採用活動となるように計画する。採用は、引き続きエバンジェリストの養成を行い、若い職員に法人の採用フェア活動の中心となってもらおう。
内定受諾後のキャンセル防止のため、研修委員会とともに内定者研修を企画・実施し、更に、行事や実践報告会、法人セミナーへの内定者招待、有償でのインターンシップなど、工夫して実施する。
専任の採用担当を配置してから3年目となり、今までの活動を踏まえて、今後の採用活動を見直し、コロナ禍の中、現在の深刻な採用困難の中、採用者を増加できるように対応していく。

②人事配置計画

今年度は施設長1、課長5、係長10、主任11、合計27人と今までにない数の昇任人事を行った。大島の入所施設へはここ例年、十分な職員配置ができていない中、施設での努力で何とか職員の確保をしてきたが、今年度は夜勤ができる女性職員の最低限の確保も難しく、法人全体の課題として対応が必要となっている。職住近接のニーズが高まる現在、各施設で求人活動が必要とされるが、施設ごとの取り組みの差も大きい。施設と連携した求人強化が重点課題となる。



ニユース ラウンジ

年齢の差・障害の有無を越え、

第五回はばたけ葛飾 ポッチャ大会が開催

東堀切くすのき園

3月28日(日)、第5回はばたけ葛飾ポッチャ大会が当施設3階活動室の公式コートで開催されました。葛飾区ポッチャ協会が主催、葛飾区教育委員会の後援でした。幼児から高齢の方まで約50人が集まり8チームが参加し予選リーグと決勝トーナメントを行いました。運営に際しては、スポーツ庁・日本障害者スポーツ協会の感染拡大予防ガイドラインを用いながら、ボールの消毒やマスクの着用、3密防止と換気を適宜行いながら安全な開催をめざしました。世代や障害を問わず、同じルールで楽しめるのがポッチャ競技の良いところです。当施設からも職員3名が参加して大会を盛り上げ、あるゲームでは、幼児対高齢者の80歳の年齢差での対戦となり、会場からの拍手と参加者の笑顔が絶えませんでした。



老若男女、障害に関らずみんなで楽しめるポッチャ

当施設では、サービス提供を行っていない夜間や週末に、地元町会の様々な活動や葛飾区ポッチャ協会と連携した事業や会合を行うために、施設を一部開放しています。身体障害のある人のリハビリの一環で開発されたパラリンピックの正式種目であるポッチャですが、プレーを希望する車いすの方が気軽に利用できるコートは、葛飾区内では特別支援学校以外にはないのが実情です。武蔵野会では施設のバリアフリーの環境やスタッフの専門性を活かし、ポッチャアスリートの育成・支援や、世代や障害に関わらず近隣住民の皆さんが気軽に参加できるイベントの運営などに取り組みでいきたいと考えています。

振袖着付け体験

リンクス柗田



お化粧と合わせて着付けました

11月10日(木)と2月20日(土)に振袖の着付け体験を行いました。今回はNPO法人「きもの笑福(わふく)」さんご協力の下、企画・開催を進めました。「着物の素晴らしさ、晴の想いを分かち合う」そんな思いで学校や地域、海外留学生や児童養護施設、障害者支援施設などで活動してきました。事の始まりは八王子地区のボランティア担当を中心とした情報交換の場での武蔵野児童学園からの紹介でした。

リンクス柗田利用者の殆どが特別支援学校を卒業したばかりであり、ご家族からは20歳を迎えるにあたって一般的な成人式への参加を断念している思いも耳にしました。コロナ禍では直接的な人との交流が難しい状況もありましたが、何とか「着物を纏う、晴の機会を設ける」ことができないか

施設あれや これや

第2大島恵の園

2月10日にバレンタインまつりを実施しました。購入したチョコレートファウンテンは、皆さん初めての経験だったようです。その他、景品付きの福引きやハットグなどが出来ました。

えみふる

えみふるが主体となり、千代田区内の相談支援事業所を集めて事例検討会を開始しました。今後定期的に開催し、そこから見えてくる地域課題を抽出し、行政への問題解決の提案へと繋げていきます。

八王子福祉作業所

去る4月1日、入所式が執り行われました。真新しいスーツに身を包んだ5名の新入所者は頼もしい先輩たちに囲まれ、祝福されて、少しはにかんだ表情で新社会人への第一歩を踏み出しました。おめでとうございます。

九品仏生活実習所

3月29日から「クローバーアト展」が開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の為、WEB媒体での実施となります。世田谷地区4施設の利用者の方が制作した個性溢れる作品をぜひご覧下さい。

きね川福祉作業所

葛飾区の危機管理課から、緊急時の電源確保用にと中型蓄電池と小型蓄電池を配備して頂きました。葛飾区は大雨等で洪水が心配なだけに、緊急連絡の受信に必要電源が確保できてこれから心強いです。

八王子生活実習所

今年度は2名の新規利用者を迎え入所式が行われました。新しいメンバーに先輩たちもウキウキです。コロナ禍のためもうしばらく制限のある生活が続きそうですが、楽しい活動ができるようみんなで気持ちを新たにしました。

武蔵野児童学園

また、別れと出会いの季節が訪れました。学園を卒業し、自立生活をする人、家庭に戻る人、施設を利用する人、巣立つ先はそれぞれですが、かけがえのない青春のひと時を幸せに生きて欲しいと願っています。新しい仲間と出会い、学園も新たなスタートをきりました。みんな頑張れ!

駒沢生活実習所

駒沢オリンピック公園西口ゲートにて毎月第二・第四土曜日開催されるファーマーズマーケットに昨年参加しています。地元農家のこだわり野菜や花屋さん、はちみつ屋さんなどに交じって駒沢オリジナルアクセサリーの販売を通じて交流を進めています。

職員採用

法人本部

という想いから開催にこぎつきました。当日は、利用者、職員、きもの笑福の方々のみならず、保護者の方々にも参加いただき、晴れの機会を写真に収めることができました。ご家族からは「こんな機会が来るとは思っていなかった」と、着付け体験を通じて、「笑福」な時間を過ごしていただいたようです。

武蔵野会では、これまで現場の職員と協力しながら、さまざまな就職フェアに出展し、イベント会場でも多くの学生に法人や各施設の紹介を行ってきました。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、対面式の就職イベントの多くが中止になりましたが、何とかコロナ禍でも就職イベントに参加できるように一般社団法人Job&Careerが企画するオンライン就職イベントに参加しました。手探り状態でしたが、福祉の仕事に興味を持つ学生が、現場で働く職員と対話を重ねることで、より現場のイメージや仕事のやりがい共有ができるよう工夫しています。イベントではビデオ会議ツールを活用し、各施設と本部、学生がそれぞれの拠点からオンラインで中継を結び、お互いの顔を見なが

ら法人の紹介や学生との情報交換ができます。互いの温度感を画面上で感じることは難しいですが、自宅から気軽に参加できるため、遠距離でなかなか参加できなかった地方在住の学生も感染リスクを避けながら参加できるメリットも多いです。今後も武蔵野会を担う若手職員が増えるように各施設の職員と協力しながら、オンラインを活かした就職イベントへの参加を続けていきます。



2021上半期エバンジェリスト集合です

提携社会法人 ネットワーク参加

法人本部

2月20日、24日の両日、日本福祉大学が主催する「提携社会福祉法人サミット」に法人の施設長全

員が参加しました。この日本福祉大学を中心とした提携社会福祉法人は、全国の14社会福祉法人が、教育・研究、防災などの実践と事業交流を図ることで、地域社会の発展や社会福祉人材養成の改善・充実の取り組みを続けています。毎年2月には法人の事業や経営、福祉人材の育成といった課題について相互に学び合う「提携社会福祉法人サミット」を開催しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け昨年度は残念ながら中止となりましたが、第14回となる今年度は「Withコロナにむけた社会福祉法人のこれからと大学との連携について」をテーマに、オンライン形式によるZoom開催での実施となりました。サミットでは、当法人の高橋理事長が、「コロナ禍における社会福祉法人の取り組み」を特別報告しました。例年は数名しか参加できないサミットですが、オンラインでの実施となったため、今年度は全施設長が参加して貴重な学びの機会を得ることができました。これからも、この提携社会福祉法人を活用した学びを深めていきたいと思えます。



お知らせコーナー

6月26日(土)

「様々な生きづらさを知る～ひきこもり～」をテーマに社会福祉法人武蔵野会オンラインセミナー(13:00～17:00)を開催いたします。

どなたでも無料で参加できますので、ぜひご参加をお待ちしております。

【お問合せ】 社会福祉法人武蔵野会
電話:042-631-6341
e-mail:seminar@musashinokai.jp
もしくは、お近くの法人事業所まで。

新型コロナ感染症予防のため、行事の開催を中止・縮小する場合があります。開催の有無等、詳細は各事業所にお問い合わせください。



消毒液設置台

白鳥福祉館

今年には新型コロナウイルスの影響により施設全体で感染防止に取り組んでいます。特に手洗いと手の消毒は大切な感染予防策のため、今回は家族会から消毒液を置く設置台を2台寄付して頂きました。写真左の設置台には「手指の消毒にご協力をお願いします」のロゴも入り来館者の目を引きます。もう1台は足踏み式で、ポンプに触れることなく手の消毒ができます。多くの

人が出入りする玄関にこの2台を設置し更に感染防止の徹底が可能になりました。家族会からはこの他にもアクリルボードを頂くなど、ご家族と共に感染防止に取り組んでいます。



2台の消毒液設置台

マッサージチェア購入

西水元あやめ園

ご利用者様の家族から「職員さんの元気が出るようなことに使ってください」とご寄付をいただき、マッサージチェアを2台購入しました。早速、職員からは「身体が楽になった」「気持ち良かった」と声があり、効果が元気に表れています。私たち職員の元気が、利用者や地域の方々への元気につながるよう努めていきます。ご寄付と元気を、ありがとうございます。大切に使用させていただきます。



マッサージチェア

ショーケース

自主生産品紹介

新商品

パウンドケーキ

北町福祉作業所

☎03・3559・0361

新たに、パウンドケーキミニサイズの販売を始めました。大きさはホールサイズの4分の1で、袋からお皿に移すことなく食べられます。今後、季節限定商品を中心にミニサイズで作っていく予定です。四季折々の商品を是非、お楽しみ下さい。



おいしく焼けたパウンドケーキ

米粉パン

鳥山福祉作業所

☎03・3326・8001

小麦を使用せず、米粉を100%使用したグルテンフリーの米粉パンです。プレーンタイプはもちろん、季節のフレーバーもご用意しております。ひと味違った風味と食感をこの機会にぜひお手にとってお楽しみください。



ほんのり桜が香る一品

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する事業所の利用者のためにより良い環境や施設の充実、円滑な運営などを物心両面から支える組織として武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により会の拡大を図り、法人の運営基盤の確立を応援していますのでご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3

電話・FAX 042-626-9772